

### 3) 陸域生態系 (カンムリワシ)

環境監視の概要は以下に示すとおりである。

項目	カンムリワシの繁殖行動及び、採餌行動、若鳥等のねぐら行動
調査地点・範囲	カタフタ山のつがいの繁殖行動及び採餌行動が視認出来る場所
調査時期等	工事の実施及び飛行場の施設の供用後3～5年程度（状態が安定した時点で終了）とする。 調査時期は繁殖行動及び採餌行動が頻繁に見られる2、3、4月とする。
調査方法	「猛禽類の保護の進め方(特にイワシ、クマカ、材カについて)」(環境庁)に準拠した方法により、カタフタ山周辺域において繁殖の可能性のあるつがいを個体識別し、求愛行動や交尾行動、なわばり行動等の繁殖行動を記録する。採餌行動は主要な餌場である水田や県道において待ち伏せや狩猟等の採餌行動を記録する。また、若鳥や移動個体が利用するねぐら場所を記録する。 また、カタフタ山などの樹林地においてはリュウキュウツミやオサハシブトガラスなどの繁殖もこれまでに確認されており、調査中にこれらの種が確認された場合は、併せて記録を行う。

### 4) 海域生物・海域生態系

環境監視の概要は以下に示すとおりである。

項目	海域生物の生息状況とその種組成 海域生物の生息環境であるSS、COD、栄養塩物質類等
調査地点・範囲	轟川河口付近を中心とした海域
調査時期等	工事の実施及び飛行場の施設の供用後3～5年程度。 調査時期は種の分布又は生息環境への影響が的確に把握できる時期
調査方法	現地調査と同じ方法による